

放送日 令和6年5月8日（水）
担当者 市長 上野 正三

皆さんおはようございます。市長の上野正三です。令和6年度がスタートし、約1ヶ月が経過しました。

本日から朝のスピーチです。市長は皆さんのスピーチを楽しみにしています。

さて、4月27日からの大型連休はいかが過ごされたでしょうか。市長は体力強化連休と位置づけ、1日8,000歩を目標にレクの森等ウォーキング三昧でした。

レクの森の散策路は平成30年台風により風倒木で利用を休止していましたが、この4月に社会教育課等の職員のご努力で倒木処理、橋の補修等が行われ復旧しました。感謝申し上げます。札幌近郊にはない魅力あるウォーキング、トレッキングコースです。皆さんも是非一度足を運んでみてください。

さて、明治17年に一村創建を目指した和田郁次郎翁ら、広島県人25戸103人によって原始の森に開拓の鋤がおろされてから、140年の節目の年を迎えます。開拓期の艱難辛苦、挑戦する気持ちを前面に開拓に当たられ、今日の発展の礎を築いてこられました。我々も先人の想いをしっかり受け継ぎ、その想いを次世代へ引き継いでいかなければなりません。

昨年3月、北海道日本ハムファイターズの本拠地であります「エスコンフィールドHOKKAIDO」を中心とした、ボールパークFビレッジが開業し、国内外から346万人の来場者が訪れました。将来にわたり持続可能な市政運営、市民の皆さんが安全で安心して暮らせるまちづくりを目指し、まさに新時代への幕開けであり、新しいことへの挑戦のスタートの年でありました。

皆様には、当市のキャッチコピーであります「アンビシャスシティ、大志をいなくまち」の職員として、何事にも挑戦する気持ちを忘れず、市民のため業務に当たっていただくことをお願いいたしまして、朝のスピーチといたします。

放送日 令和6年5月13日（月）
担当者 副市長 川村 裕樹

おはようございます。副市長の川村裕樹です。

4月より副市長として市長を支え、日々業務に当たっているところです。3月までは経済部長として、皆さんと同じフロアにいて業務を行っていましたが、今は副市長室に入っていることもあり、若干とまどいがあります。

私は、副市長就任時に、市役所全体が一つの組織として、部長職を中心に横串が刺さったような、風通しの良い環境づくりを目指すと決意いたしました。

本市を取り巻く環境が、想像以上のスピードで変化している中、それぞれの組織だけで立ち向かうには難しく、組織横断的に人・もの・金を出し合いながら進める必要があります。そのためにも、風通しの良い職場環境は基本中の基本だと思っています。

何事にも準備と振り返りは大切だと思います。仕事に入る前の準備、終了後の振り返り、机の上の整理整頓、当たり前の所作を職員一同徹底していただきたいと思っています。

私は先輩から、机の上はその人の頭の中を表すと教えられ、副市長になった今でもその教えは徹底しています。こうした環境づくりは、必ず市民サービスの向上に繋がっていきます。様々な価値観を定量的に表そうとしている時代において、そうではない定性的な価値観も職員自らが経験し、広めていただきたいと思っています。

今年の二十歳の集いはエスコンフィールドで行われました。我々先輩たちが積み重ねてきたまちづくりの一つの定性的な価値として、参加者代表のメッセージは心に残るものでした。そのメッセージは、「ボールパーク開業までの道のりを近くで、誰よりも前向きに見届けてきたことから、困難な道のりの中をひたむきに直進し、壁を突破していく大人達の「アンビシャスの魂」を繋いでいくのが、北広島に生まれ育った、我々の使命である」。「エスコンフィールド HOKKAIDO でのアルバイトを通して、北広島が世界に大きく開かれ、愛されていく未来に胸が弾み、ふるさとを心から誇りに思ことから、この誇りとゴルフから学んだスポーツマンシップを胸に、世界に目を向け努力を重ね、社会に貢献していくことを誓う」。いかがでしょうか。

こうした世代に対しても胸を張って期待に応えられるよう、我々職員が改めて自分の日頃の所作を確認し、日々の業務に当たっていただきたいと思っています。私自身、職員皆さんとの対話を大切に、今後も業務にあってまいりますのでどうぞよろしく願いいたします。

放送日 令和6年5月15日（水）
担当者 教育長 吉田 孝志

おはようございます。教育長の吉田孝志です。日頃より、市民目線を大事にして各種業務の遂行に当たっておられる市職員の皆さんに敬意を表します。市民のために、まちづくりのために、今後も健康に留意しつつ、自らの行政手腕のブラッシュアップに心がけていただきたいと願っております。

さて、今日は、「学校の先生」という仕事への理解と支援についてお願いをしたいと考えています。基本的に教師は、「不易と流行」を大事にして教育活動を進めています。とりわけ、先行き不透明な時代と言われる今日、「不易」の視点からは、人権感覚や道徳的な価値など社会性や人間関係力の育成をはじめとする、時を経ても変わることのない本質的な事柄を基本にして指導に当たります。また「流行」の視点からは、学習指導要領等が求める個別最適な学びと協働的な学び、対話力やICT活用力など今日的に必要とされる資質・能力の育成に全力を傾注しています。これは、不易を知らなければ、基本の確立は難しく、変化を知らなければ、新たな展開を見出すことはできないと考えるからなのであります。以前、ある教育新聞で、国の財務官僚が「教師全員を東大卒にすれば日本の教育は一遍によくなります」との発言をしたとする記事を目にしました。こうした発言の裏には、教職の専門性を等閑視する発想があるように思えてなりません。教師とは誰にでもできる簡単な仕事だという認識も見え隠れしているようにも思えます。おそらく、誰であっても、近くの学校に行って小学3年生の授業をしてみてもと言われても、そう簡単にできることではないと思っています。それは、教師は、人が学ぶとはどういうことか、子どもの発達とは何か等を押さえた上で、教科といった土俵の上で子どもと対話をし、理解の質を高める専門職であると考えからです。教職の専門性を等閑視することは、教育界の持つ力を活かせず、結果として社会全体の利益を損なうことになるものと思います。ちなみに、「等閑視する」とは、対象を重要なものと見なさず、注意を払わないこと、あるいは物事を軽く見て、いい加減に扱うことを意味します。

また一方で、令和5年10月に文部科学省の初等中等局長が、「教職の専門性の発揮に不可欠な『余白』を生み出すために、教職の専門性を強く社会に発信するとともに、教育課程の改善、国策としてのGIGAスクール構想の推進、教職員定数の改善などの指導体制の確立、教職員の処遇改善などを一体的に行っているところであり、教師は専門職であり、その専門性は重要な公共財である」と述べております。併せて、「教育予算は、『米百俵』の精神による国家的な未来への先行投資であり、安定的で、恒久的な財源の確保が基本となる」とも発言されております。文部科学省の教育にかける思いを感じ取り、期待を寄せているところでもあります。学校は信頼の上に成り立つ社会的公器です。よって、教師の皆さんには、自らの専門性をアップデートし続ける存在であって欲しいと思っていますし、学校管理職の皆さんには、教職の専門性を地域や保護者に啓発し続けていただきたいと思っています。

市職員の皆さんにおかれましては、これまでPTA活動をはじめ、学校の環境づくりや教育条件整備等にご理解とご支援をいただいているところではありますが、これまでと同様に、いえ、これまで以上に、学校の、教師の専門性、公共性に信頼を寄せていただき、未来を担う北広島の子どもたちの健全育成に向けて一層のお力添えを賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

放送日 令和6年5月20日（月）
担当者 企画部長 千葉 直樹

おはようございます。企画部長の千葉直樹です。

本年度も企画部は、「庁内の総合的な企画・調整の役割を果たすとともに、市長の意志を理解し一丸となって精一杯業務にあたります。

昨年は、ボールパークFビレッジが開業し、まちの様子が大きく変化しました。それは、施設を中心とした迫力ある視覚に訴えるエリア、交流人口・関係人口の大幅な増加による賑わい、地元経済の活性化、そして多くの市民の感情の変化があると感じます。

これは私の主観かもしれませんが、比較的高齢の方に活力が出たこと、将来を担う子どもたちのまちに対する意識や誇りが感じられることです。

この効果を持続させるため、将来を見据えたまちづくりの実現に向けた全庁的な取り組みが必要となります。

企画部の一例だけを上げましても、駅周辺の活性化、ふるさと納税の推進、SNSなどを活用した情報発信、景観の形成などたくさんありますが、職員皆がフル回転で真剣に取り組んでいる姿を私は誇りに思います。

長年の経験から仕事にはアイデアとチャンスが必要です。「アイデアは貯めておけますが、チャンスは貯めておくことができません。常にこのチャンスを見つけるアンテナを張ることとそれを活かす準備をしておくことが大切だと思います。

また、ある業務で市民の方からクレーム的なお叱りを受けたことがありますが、誠実に対応したことで逆に感謝された経験もあります。このようなときは嬉しくなり、仕事に対するモチベーションも上がるものです。

どこの部署にも課題はあると思いますが、互いに協力することで一つ一つクリアできるはずですので前を見て頑張りましょう。

放送日 令和6年5月22日（水）
担当者 企画部次長 池田 恵一

おはようございます。企画部次長の池田恵一です。

4月に総務部渉外担当から企画部渉外担当となり、新たな気持ちで市長を初めチーム一丸となって補佐し、風通しの良い業務環境を遂行して参りたいと思っております。

最初に、北海道における防衛環境と自治体との役割についてお話させていただきます。世界的に国際社会は戦後最大の試練の時を迎え新たな危機の時代に突入しつつあります。

日本でも毎日マスコミ報道されています、ロシアのウクライナ侵攻は、国連安保理の常任理事国が国際法を無視して主権国家を侵略し、核兵器による威嚇ともとれる言動を繰り返すという前代未聞の事態を引き起こしています。

こうした中、日本政府の施策において脅威に対抗するため、日本の安全保障戦略の第一の柱であります「外交力」、「抑止力」が不可欠だと考えられております。そこで、北海道自衛隊においても北海道大演習場での日頃の訓練を始め脅威に対する役割は大変重要な「抑止力」となっている事は過言ではありません。当演習場の近隣自治体として可能な限り、自衛隊と協力体制が取れるよう連携を図って参ります。

具体的には演習場で戦車砲等による射撃訓練のほか、ヘリコプターなどによる訓練において市民の皆様にも極めて大きな騒音・振動などの障害を与えています。

このため、市としましては市民の皆様のご理解とご協力を得ると共に防衛施設の設置・運用によって生ずる諸障害の解消や緩和に向け事業の採択及び補助金の助成について防衛省、財務省、総務省、北海道庁、北海道防衛局そして北海道選出の国会議員の方々へ要望しているところであります。

昨年度に引続き、防衛省所管の補助金を獲得するための要望活動や関係機関、近隣自治体との連携を図るべく連絡調整を更に強化し、事業の採択がスムーズに実行出来るよう関係機関等への要望活動を行ってまいります。

また、今年7月9日には防衛補助事業の一つとして大曲地区に防災食育センターが完成し、2学期からの運用開始に向けオープニングセレモニーが開催されます。その他道路整備補助事業及び学校防音対策補助事業など市民の皆様のご生活に直結する民生安定に係わる一旦を、進めていくことが極めて重要な職務だと考えております。

結びになりますが、自衛隊と自治体が共存共栄していく中で、まちづくり事業に係る防衛補助を取り込み、市民の安心安全な生活環境を構築し、益々住みやすい街めざして進めて行く事が出来るものと思料します。

放送日 令和6年5月27日（月）
担当者 政策広報室長 福田 誠

おはようございます。企画部政策広報室長の福田誠です。

今年度、市の政策広報機能を強化するため、企画部に広報課と秘書課を所管する政策広報室が新設されました。

広報課では、丁寧で正確な市政情報の発信を行うことを基本方針とし、今年度は新たに、複業マッチングプラットフォームを活用した移住施策の立案や、SNSの運用体制強化と効果的なプロモーションなどの課題解決に取り組みます。また、対話型AIチャットサービスを市のホームページへ導入することとしております。さらに自主財源確保のため、ネーミングライツ事業にも力を入れていきたいと考えております。

次に秘書課では今年度、7月13日から同時開催が予定されております「北の酒まつり」と「ふるさと祭り」の日程に合わせて、東広島市との姉妹都市交流事業を実施いたします。

また、11月21日から2日間の日程で、各都市における共通課題や新しい時代の都市像とまちづくりの研究などを目的とする「北海道都市問題会議」が当市の芸術文化ホールで開催されることになっており、秘書課が事務局を担っております。

この会議は昭和49年から開催され、当市での開催が48回目となる歴史ある会議ではありますが、当市での開催をもって終了されることになっております。会議の詳しい内容が決まりましたら皆様にお知らせいたしますが、多くの方にお越しいただき、最後の開催にふさわしい会議になるよう、関係部局のご協力をいただきながら進めて参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

放送日 令和6年5月29日（水）
担当者 総務部長 尾崎 英輝

おはようございます。総務部長の尾崎です。

本日は令和6年度総務部運営方針の中長期的課題としてあげている「若手職員の離職防止」に関連し「北広島市で働くこと」についてお話しします。

5月9日付け日本経済新聞に新卒や入社数年の若手社員の早期離職が目立ち、新入社員の4割が転職を検討しているとの記事がありました。記事によると辞めたい理由の1位は「仕事にやりがいや意義を感じないから」このことです。本市でも数は多くないものの毎年、入庁数年の若手職員が離職します。

公務員になりたくて入庁したけれど「自分には向いていなかった」「やりたいことと違った」と言って転職された方々が今、自分が思う仕事ができているかどうかはわかりません。

ただ「自分が本当にしたい仕事」なんてどこかに転がっているわけでも誰かが与えてくれるものでもなく結局、目の前にある「やるべき仕事」を本気で取り組むことでしか見えてこないものだと思います。本気で取り組んでも上手くいかず、辛い思いをすることもあると思います。でもそれは当然です。情報化社会の中、耳に心地いい情報が溢れていても実際は何をするにも辛抱はつきものです。

市役所の仕事はそこに住む人々の生活を支えることです。誰かの役に立ちたくて公務員になったみなさんが向いていないことはないと思います。ボールパークが開業し大きく成長しようとしているこの街で、みなさんも共に大きく成長してほしいと考えています。